

# 小児在宅医療 現状は

## はちのへフォーラム 関係者ら意見交換

はちのへ小児在宅医療フォーラムが10日、八戸グランドホテルで開かれた。参加者約120人が講演やシ



小児在宅医療について意見を交わすシンポジスト=10日、八戸グランドホテル

ンポジウムを通して、人工呼吸器などの特殊な医療ケアを必要とする子どもが、地域で安心して暮らせる環

境づくりを考えた。

八戸市の「はちのへファミリークリニック」(小倉和也院長)が主催。青森県内の医療・福祉、教育関係者や子どもたちの保護者らが参加した。

シンポジウムでは、病に負けず、医療器具を着けて歌う声楽家青野浩美さん(京都市)や、人工呼吸器を着けながら普通学校に通い、大学で福祉を学んだ宮川智道さん(仙台市)、医療、教育関係者6人が登壇。子どもたちの在宅医療の現状を紹介したほか、継続的なケアが必要な子どもが、安心して就学するために求

められる対策について、意見を交わした。

県立むつ養護学校の湯田秀樹教頭は「早い段階で教育委員会が子どもの情報をつかめることが大事。学校が受け入れる環境を整えておくためにも、(保護者は)入学の数年前から関係機関に相談してほしい」と呼び掛けた。

青野さんは、音楽教師を務めた自身の経験を基に「小学校や中学校の時期に、児童・生徒が障害のある、ないにかかわらず一緒に勉強することは、大きな教育的意義があるだろう」と語った。

(渡部優)